

マーケット概況（2021年11月）

11月の債券相場は、10年364回債の利回りが前月末比横ばいの0.095%で取引を開始した後、前月末の衆院選で自民党が単独で絶対安定多数を維持し政権安定化期待による株高が進んだことから同利回りは1日に0.105%まで上昇した。また、債券先物12月限は一時151円19銭まで下落した。その後は過度な国債増発懸念が後退したことや、3日の米国FOMCでパウエルFRB議長が早期利上げを牽制する姿勢を示したことから相場は買いに転じた。さらに、4日開催の英中銀・金融政策委員会で大方の市場予想に反して利上げが見送られたことや、5日発表の10月米国雇用統計で労働参加率が低調となったことも相俟って8日に10年364回債の利回りは0.050%まで低下した。しかし、10日発表の10月米国CPIや16日発表の10月米国小売売上高など米国で経済指標が軒並み堅調な結果となり利上げ前倒しリスクが意識されると相場は下落に転じた。18日に政府の経済対策規模が財政支出ベースで55.7兆円と報道され国債増発懸念が広がったことも重荷となった。月末にかけては、26日の日本時間早朝に新型コロナウイルスのオミクロン型変異株が検出されたことで世界的に株安となったことから相場は再度買いに転じ、10年364回債の利回りは30日のイブニング・セッションで0.050%まで再低下した。先物は同日夜間取引で一時152円04銭まで上昇して取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は投資家の年末越え担保ニーズや、発行額が7,000億円減額の4兆3,000億円になったことを受け、月末にかけて低下した。5日の3M1035回債入札は、最高落札利回りが-0.1172%と前回債から小幅低下してスタートした。投資家需要の継続により、12日、19日の3M入札では最高落札利回りがそれぞれ-0.1210%、-0.1377%、26日の入札では-0.1470%となり、セカンダリー市場では-0.1650%まで低下する場面もあった。最終的に3M1041回債は、-0.165%で月内の取引を終えた。6M金利は-0.11%台、1Y金利は-0.12%台でスタートしたが、3Mのレート低下や担保需要を背景に、いずれも-0.14%台で取引を終えた。

<一般債市場>

10年政保債の起債はなく、10年地方債は起債スプレッドが国債カーブ+6.0bpと前月比同水準で決定したが、月初10年国債利回りが0.10%近辺で推移したことから利率は前月債対比で上昇した。5年地方債は前月と同利率の0.001%で決定し、いずれも需要は旺盛だった。既発債は一部スプレッドの拡大が意識されたが、需給に大きな変化はなかった。社債は中間決算発表終了後の中旬以降に起債が本格化し、中日本・東日本高速道路、三井住友海上火災保険、三菱UFJフィナンシャルグループ等が押し上げ要因となり、発行額は7,041億円と前年同月比で2,191億円増加した。SDGs債は、荒川化学工業とイオンモールが発行体として初めてサステナビリティ・リンク・ボンドを起債し旺盛な投資需要を集めた。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#364	0.095(1日)	0.050(8日)	0.105(1日)	0.050(30日)
#363	0.085(1日)	0.035(8日)	0.090(1日)	0.035(30日)
#353	-0.045(2日)	-0.085(30日)	-0.045(1日)	-0.085(30日)
#149(5Y)	-0.070(1日)	-0.105(8日)	-0.070(1日)	-0.100(30日)
#178(20Y)	0.470(1日)	0.430(8日)	0.480(1日)	0.450(30日)
#1032-#1040TDB(6M)	-0.115(9日)	-0.148(26日)	-0.115(9日)	-0.147(30日)
#1034-#1041TDB(3M)	-0.120(5日)	-0.165(26日)	-0.118(12日)	-0.165(26日)